

『参考書誌研究』第50号の刊行に際して

大 滝 則 忠

本誌『参考書誌研究』が創刊されたのは、昭和45年11月のことである。図書館資料を効果的に使えるよう利用者に助言し、利用を援助するというレファレンス・サービスの日々の業務に密着した報告や情報を積み上げ、その質的向上を図ることを目指して刊行された。

節目の第50号を迎えて、本号には創刊以来28年の歩みである総目次集を掲載した。本誌の執筆者は、主として館内職員であるが、同時に、広く図書館界で業務に携わる図書館員や利用者として図書館資料を活用している館外の方々も数多い。内容を一覽して、業務の成果を共有のものにしながら、レファレンス・サービスにおける各種図書館間の相互協力を推進する一翼を担うという、本誌が果たす役割が再確認できる。

今日の社会全般における情報化の進展は、図書館サービスが大きく変貌することを求めている。電子媒体による情報の流通が急激に進んでいることは、印刷媒体を中心として扱ってきた従来の図書館業務に大きな変化をもたらしており、現代の図書館はこの新しい状況への対応の渦中にある。図書館を通じてアクセスできる情報とそれらの情報を求める利用者とは、媒体を問わず、最も効果的に結びつける図書館の機能と図書館員の役割が、ますます重要になっている。

国立国会図書館は、新世紀初頭に向けて、国際子ども図書館と関西館(仮称)の開館、機能としての電子図書館化の推進の三大プロジェクトを軸に、全館的な業務再構築の過程にある。特に、関西館開館を機に再編成される東京本館の専門資料室及びレファレンス・サービス業務については、館全体が所蔵する国民共有の情報資源を利用者が最大限に活用できるような体制を目指して検討が進んでいる。また、多様かつ広範な利用者の求めに応えるため、インターネット環境で双方向の図書館間相互協力がより一層深化できるように、ネットワーク上のレファレンス情報システム構築の取り組みも開始している。

このような状況の下で、本誌は、目指した初心を忘れることなく、着実な歩みを続けていきたいと考えている。これまでのご支援に感謝するとともに、今後のご寄稿ご鞭撻をお願いしたい。

(おおたき のりただ 本誌編集委員長・専門資料部長)